

平成23年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成24年3月
高崎市（群馬県）

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間：平成20年11月～平成26年3月（5年5月）

1. 概況

本市では「高崎の活力と新しい文化を創造・発信する“賑わい・交流・文化都心”」を基本理念に掲げ、「高崎駅東口拠点開発」、「高崎市総合保健センター・中央図書館建設」、「地元百貨店増床」の3事業を中心市街地の活性化を牽引するリーディングプロジェクトと位置付けて、市街地や都市福祉施設の整備、住宅供給及び居住環境の向上、商業の活性化などの各種事業に取り組んでいる。

認定後、新たに5事業を追加し「商都・高崎」の再生に向けた取組みを積極的に進め、基本計画掲載68事業（再掲を含む）の進捗状況は、事業完了が18事業、実施中が45事業、未着手が5事業となっている。

高崎駅東口拠点開発については、概ね予定通り進捗しており、駅周辺の安全・快適な歩行者空間を確保するために、東口駅前広場の機能拡張（公共交通と一般交通の分離等）を図るとともに、ペDESTリアンデッキを中心とする歩行系空間を整備している。

更に、平成20年7月に大型小売店が開店したことにより、既存の大型小売店も相乗効果で集客力を増大させており、その効果は地元商店街にも波及するなど、中心市街地全体の活性化を誘発する起爆剤となっている。

その結果、中心市街地内の小売業年間商品販売額は大幅に増加し、平成21年度には1,205億円と、既に目標を達成している。

平成22年12月には高崎駅東口・駅ビル（イーサイト高崎）が増床により商業機能を充実させてリニューアルオープンした。これにより、乗降客の利用促進が図られ、高崎駅を中心とする中心市街地への更なる集客の促進につながっている。今後、小売業年間商品販売額に直接的効果が期待される。

また、高崎市総合保健センター・中央図書館が平成23年4月にオープンし、周辺の各種文化施設で開催された企画イベントとの相乗効果により、利用者数が向上しており、その効果は地元商店街にも波及している。

地元百貨店増床事業については、遅れが生じているが、この計画が実行されることで、商業拠点機能の強化が図られ、集客力の向上等による地元商店街の更なる活性化効果が期待される。

その他、掲載事業については概ね順調に推移しているものの、民間事業「高崎駅西口第四地区優良建築物整備事業」や「アーバンホテル地下改修事業」については、厳しい状況で遅れが生じている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値(年)	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち	小売業年間商品販売額	970億円 (H19)	1,200億円 (H25)	1,205億円 (H21)	—	③
市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち	歩行者・自転車通行量(休日)	22,400人 (H18)	27,500人 (H25)	20,450人 (H23)	①	④
音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち	各種文化施設の利用者数の合計値	663,800人 (H19)	704,300人 (H25)	753,157人 (H23)	—	①

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①小売業年間商品販売額

中心市街地における小売業年間商品販売額(平成21年4月から平成22年3月までの1箇年分)を推計したが、基準年値(平成19年)と比較すると約166億円増の1,205億円と見込まれ目標数値を既に達成した状況となった。

これは活性化のリーディングプロジェクトである高崎駅東口拠点開発により歩行系空間が整備されたことに加え、平成20年7月に大型小売店が開店したことにより、既存の大型小売店も相乗効果で集客力を増大させたことによるものである。

景気は回復の兆しがあるものの、依然と続く景気の低迷や隣接市域への郊外大型SCの出店等の影響により今後も厳しい状況が続くと予想されるが、今後も、高崎駅東口拠点開発、地元百貨店増床などのリーディングプロジェクトの事業効果により、小売業年間商品販売額の目標は引き続き達成可能であると見込んでいる。

②歩行者・自転車通行量(休日)

歩行者・自転車通行量(休日)は、平成21年は増加に転じたが、平成22年は調査日が台風の影響により大幅な減少となった。また、平成23年は基準年値(平成18年)と比較すると8.7%の減少となった。

高崎駅東口拠点開発、高崎市総合保健センター・中央図書館建設などの核施設の整備や回遊性を促進させる事業は順調に進捗しているが、相乗効果が期待できる地元百貨店増床事業が遅延していること、また近年、隣接市域に進出してきている郊外大型SCの影響などにより、目標達成は困難な状況となっている。

③各種文化施設の利用者数の合計値

各種文化施設の利用者数は、魅力ある大型の企画物のイベント開催や中央図書館の相乗効果などにより群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館及び高崎タワー美術館の利用者数が平成23年度に数値目標が達成された状況となった。

今後も、集客力の向上につながるよう引き続き企画内容の見直しを図るとともに、基本計画の確実な実行により数値目標の達成は可能と判断される。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量(休日)」……前回見通し①→今回見通し④

平成21年度フォローアップにおいて「①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。」としていたが、平成23年度については、隣接市域に進出して来ている郊外大型SCの影響、リーディングプロジェクト事業である地元百貨店増床事業が遅延していること、今後も依然と厳しい経済情勢が続くことが予想されることから「④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。」と見通しを変更したものである。

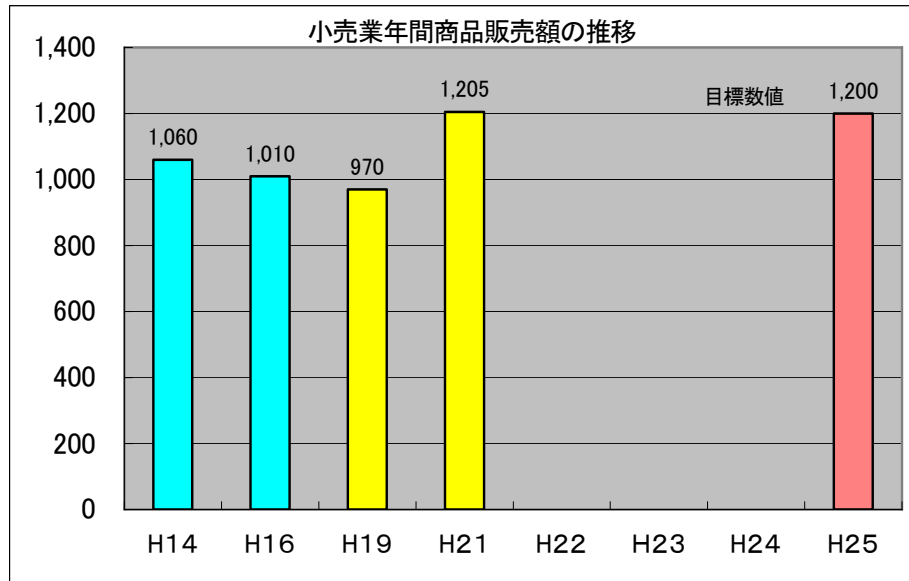
5. 今後の対策

今後も、基本計画掲載事業を確実にかつ一体的に推進するとともに、中心市街地活性化協議会や関係機関との連携を強化し、基本計画の適正な進行管理を行い、早急に効果的な事業の追加や見直しを行い、目標達成に向けて最大限努力していく。

目標「(高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち)」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P63～P66参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:億円)
H19	970 (実数値)
H21	1,205 (推計値)
H22	—
H23	—
H24	—
H25	1,200 (目標値)

※調査方法:トレンド推計、大型小売店の立地効果推計(日経MJ第39回日本の専門店調査)、大型店聞き取り調査

※調査月:平成23年11月時点調査

※調査主体:高崎市

※調査対象:中心市街地内の小売業店舗

※(参考)H19年度の商業統計確定数値は1,039億円

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①高崎駅東口第八地区優良建築物等整備事業

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	ホテル、テナント用の商業床を持つ複合施設の整備 (地上1階:店舗、地上2～11階:ホテル)
事業効果又は進捗状況	交流拠点の一角を担うべき高崎駅東口の枢要な位置にある平面駐車場用地の、高度利用を図るとともに、第八地区優良建築物等整備により売場面積の増加を図り、本目標達成への直接的効果を見込んでいる。 (平成23年1月着工済～平成24年5月完成予定)

②高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	商業ビルの建設
事業効果又は進捗状況	高崎駅西口駅前広場に面する重要な位置にある平面駐車場に、「商都・高崎」の顔にふさわしい魅力的な商業ビルを建設し、中心市街地の東の商業拠点機能の強化を図る。小売業の売場面積の増加により、本目標達成への直接的効果を見込む。 (平成24年度着工予定)

③地元百貨店増床事業

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	地元百貨店の新館増床、駐車場、イベント広場整備。
事業効果又は進捗状況	地元百貨店の集客力アップにより、中心市街地の西の商業拠点機能の強化を図り、商店街の活性化と回遊性の高まりを目指すとともに、地元百貨店の新館増床により、本目標達成への直接的効果を見込んでいる。 現在、リーマンショックや東日本大震災の影響による経営の改善を図り早期着手に向けて努力している。

④高崎駅舎改修整備事業

事業完了時期	【完】平成22年度
事業概要	駅東口駅舎を改修と商業床の増床 駅舎延べ面積2,390㎡(2階建て)を4,170㎡(3階建て)
事業効果又は進捗状況	乗降客の利用促進を図るとともに、集客施設として商業床の増床(イーサイト高崎)により商業機能が充実し、高崎駅を中心とする中心市街地への更なる集客の促進につながっている。

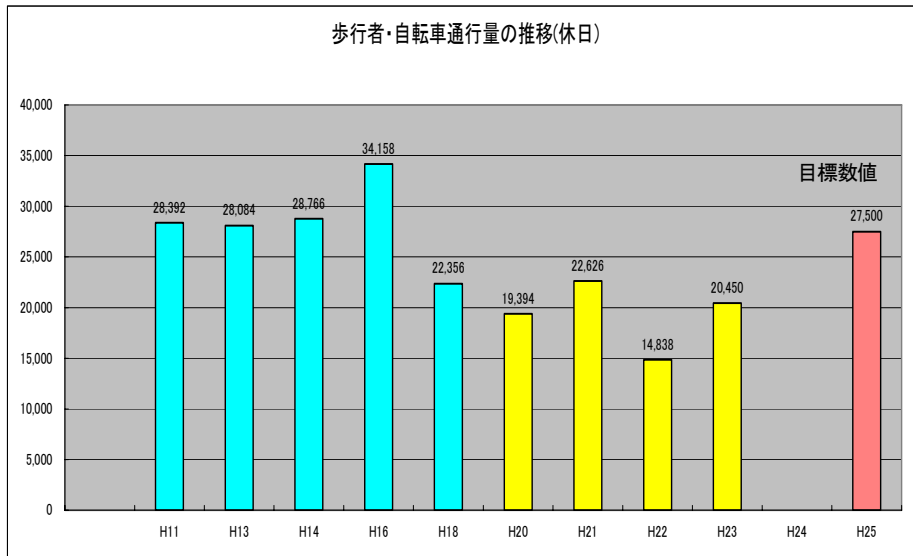
3.目標達成の見通し及び今後の対策

- ・高崎駅東口拠点開発により歩行系空間が整備されたことに加え、平成20年7月に大型小売店が開店したことにより、既存の大型小売店も相乗効果で集客力を増大させたことで、現時点で目標数値を上回ると推測されるが、今後の経済センサスで、正確な値を把握する必要がある。
- ・高崎駅東口・駅ビル(イーサイト高崎、売場面積 2,000 ㎡)が平成22年にオープンしており、今後、直接的効果が期待される。
- ・一方、地元百貨店増床事業については、遅れが生じているが、この計画が実行されることで、商業拠点機能の強化が図られ、集客力の向上等による地元商店街の更なる活性化効果が期待されることから、今後も、小売業年間商品販売額の目標達成は可能と見込まれる。
- ・さらに、中心市街地活性化協議会をはじめ、関係機関、団体等の協力体制を強化し、基本計画の適正管理を行い、掲載事業の着実な実施を行う。

目標「(市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち)」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P67～P71参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H18	約 22,400 (基準年値)
H20	19,306
H21	22,626
H22	14,838
H23	20,450
H24	—
H25	27,500 (目標値)

※調査方法:歩行者・自転車通行量調査(毎年度 10 月実施)

※調査月:平成 23 年 10 月実施、12 月取りまとめ

※調査主体:高崎市

※調査対象:休日の6地点 歩行者・自転車(10 時～18 時)の通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①人工地盤(東口駅前広場ペDESTリアンデッキ)整備事業

事業完了時期	【未(一部完成)】平成27年度
事業概要	中心市街地の東の拠点ゾーンとして位置付けられる高崎駅東口周辺の安全・快適な歩行者空間を確保するために、東口駅前広場の機能拡張を図るとともに、ペDESTリアンデッキを中心とする歩行系空間の整備を行なう。
事業効果又は進捗状況	一部完成済み(事業進捗率70.2%(事業費ベース、平成23年3月時点))、同デッキは、平成20年7月に開店した大型小売店に直結しており、集客による歩行者・自転車通行量を平成25年時点で5,300人/日と見込んでいる。 参考として、駅東側コンコースの歩行者・自転車通行量は、平成18年度の28,046人/日で平成20年度は30,718人/日、平成22年度は28,878人/日であった。

②高崎市総合保健センター建設事業(高松町地区)

事業完了時期	【完】平成22年度
事業概要	保健機能と医療機能を備えた総合保健センター(中央図書館との複合施設)の整備(地下1階、地上6階)
事業効果又は進捗状況	市庁舎、音楽センターなど都市機能が集積した地区に隣接する JT 跡地に、中央図書館と一体で整備し、都市福利機能の向上により、中心市街地への来街者の増加を目指す。また約70人/日の増加を見込

んでいる。
平成23年3月完成し、平成23年4月～9月末の入館者数の累計が46,677人で、1日の平均入館者数が376人となった。

③高崎市中央図書館建設事業(高松町地区)

事業完了時期	【完】平成22年度
事業概要	市内図書館サービス網の中心である拠点図書館として、総合保健センターと一体的に整備
事業効果又は進捗状況	中心市街地内に新たな図書館を設置することで、中心市街地への来街者の誘導を図る。また約430人/日の増加を見込んでいる。 平成23年3月完成 実績数値:平成23年4月～9月末(427,871人)約2,417人/日の入館者数

④地元百貨店増床事業

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	地元百貨店の新館増床、駐車場、イベント広場整備
事業効果又は進捗状況	地元百貨店の集客力アップにより、中心市街地の西の商業拠点機能の強化を図り、商店街の活性化と回遊性の高まりを目指す。 地元百貨店新館利用者(1,544人)の80%が同店前の調査地点を、また、新館利用者(歩行者・自転車)の15%が他の調査地点を往復回遊するとして約1,600人の通行量を見込んでいる。 現在、リーマンショックや東日本大震災の影響による経営の改善に取り組、早期着手に向けて努力している状況である。

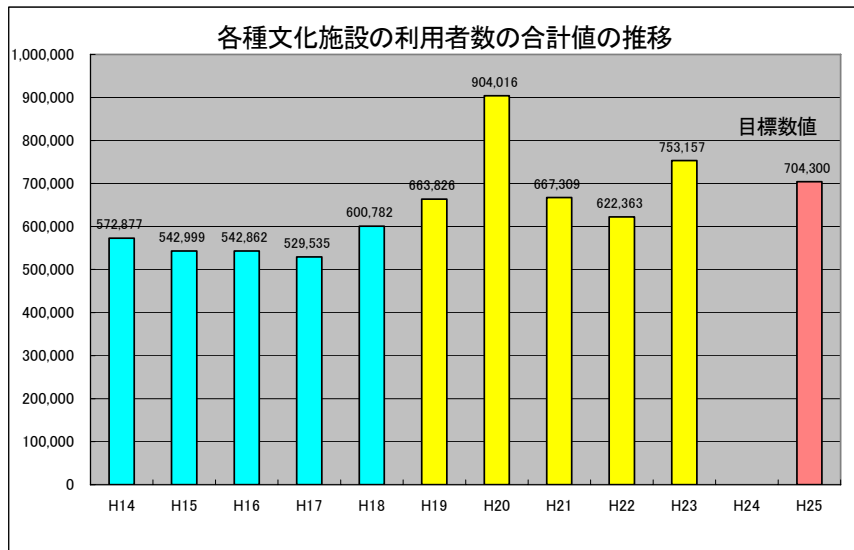
3.目標達成の見通し及び今後の対策

- ・リーディングプロジェクトである中央図書館整備が完成し、入館者数も順調に推移している。
- ・駅東口拠点整備も主要部分が概ね整備されたことによる効果が表れているものの、駅西口側まで効果が波及していない。
- ・駅西側の核となるリーディングプロジェクト事業の地元百貨店増床事業に遅れが生じており、駅西口方面への歩行者・自転車通行量が伸び悩み傾向である。
- ・その他、民間主体事業に遅れが生じており、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ・今後、中心市街地活性化協議会や関係機関との連携を強化し、基本計画の適正な進行管理を行い、早急に、効果的な事業の追加や見直しを行う。

目標「(音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち)」

「各種文化施設の利用者数の合計値」※目標設定の考え方基本計画 P72～P74参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	約 663,800 (基準年値)
H20	904,016
H21	667,309
H22	622,363
H23	753,157
H24	—
H25	704,300 (目標値)

※調査方法:利用者数調査(独自調査)

※調査月:平成23年年度実績

※調査主体:高崎市

※調査対象:群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館、高崎タワー美術館

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①ミュージック高崎ジャパン

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	群馬音楽センター、高崎シティギャラリーなどを会場に、吹奏楽やクラシックのコンサート、ストリートライブ、演奏に関する公開講座、体験教室、展示会などを実施している。
事業効果又は進捗状況	芸術鑑賞の機会の提供により、文化性の向上、来街者数の増加、賑わいの向上、中心市街地の活性化に寄与している。群馬音楽センター、シティギャラリーへの入館者数の直接的効果を見込む。 この事業に係る平成23年度の入館者数(群馬音楽センター10,126人・シティギャラリー5,543人)

②高崎市中央図書館建設事業(高松町地区)

事業完了時期	【完】平成20年度～平成22年度
事業概要	市内図書館サービス網の中心である拠点図書館として、総合保健センターと一体的に整備
事業効果又は進捗状況	中心市街地内に新たな図書館を設置することで、中心市街地への来街者の誘導を図り、図書館利用者の相乗効果として年間利用者数予測600,000人の5%(30,000人)を見込む。 平成23年3月完成 実績数値:平成23年4月～9月末(427,871人)約2,417人/日の入館者数

③群馬交響楽団定期演奏会

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	群馬音楽センターで定期演奏会、元旦コンサートやサマーコンサートを毎年実施している。
事業効果又は進捗状況	定期的に、市民に芸術鑑賞の機会を提供することにより、文化性の向上、来街者数の増加、賑わいの向上により中心市街地の活性化に寄与している。 実績数値:平成22年度定期演奏会 16,023人 入館者数

3.目標達成の見通し及び今後の対策

- ・平成23年度実績では各施設の利用者数は順調に推移している。対基準年度(19年度)比でも6.4%の増となり、既に数値目標を達成した状況となった。
- ・これは高崎シティギャラリーの古代エジプト「神秘のミイラ展」などを初め、各施設で大型企画展を開催したことによる。
- ・平成23年4月にオープンした中央図書館の利用者予測数を大幅に上回り、その相乗効果によるものである。
- ・上記状況に加え、文化施設利用者数に直接効果が期待される事業が、順調に進捗していることから、引き続き目標達成は可能と考えられる。
- ・文化施設利用者数は、大型の企画展や企画内容により大きく影響を受けることから、今後も、企画内容の検証を行い集客力の向上に努めていく。
- ・上記取り組みに加え、中心市街地活性化協議会や関係機関、団体等の協力体制を強化し、基本計画の適正管理を行い掲載事業の着実な実施を行う。